

ミッドランド市 体験記

半田高校 1 年

蜷川 水彩





私がミッドランド市で過ごした3週間は大きな気づき、成長を与えてくれました。

まず、ミッドランド市の方との交流では人の温かさとユーモアを感じました。特に食事のとき、私の好みや量を細かく気遣ってくれ、何度も確認してくれました。また、ローラースケートに行ったときは、全く滑れない私に手を差し伸べ、教えてくれました。そのおかげで、最後には一人で滑れるようになりました。さらに、市民の方々も、ガレージセールや公園などで声をかけてくれました。ミッドランド市の方々は心に余裕があり、日常の中で「素敵だね」「頑張っているね」と褒め言葉をかけ合う文化に触れ、互いを認め合うことの大切さを強く感じました。

最も印象に残っているのは、ウェルカムパーティーで出会った友達とのお泊まり会です。お互いの言語を教え合ったり、ゲームをしたり、学校の話をしたりと、夜通し語り合いました。言語の壁でつまることもありましたが、不思議と心でつながることができました。言葉だけではなく、笑顔や仕草、気持ちのこもったやり取りがあれば十分に通じ合えるのだと気づき、この経験は私に大きな自信を与えてくれました。

もちろん、楽しいことばかりでなく苦勞もありました。ホストファミリー以外の方との会話です。特に、店員さんは私が英語を理解できないとは思わず、速いスピードで話しかけてきます。そのたびに聞き取れず、周りに助けをもらうことがありました。さらに、質問をされたときに「聞き取れなかったらどうしよう」「答えが出てこなかったらどうしよう」と考えすぎてしまい、会話が怖くなることもありました。

最初の頃はうまく話せない自分に劣等感を感じ、孤独に思うことがありました。しかし、その不安を乗り越えるきっかけは、やはり人とのつながりでした。





多くの方が最後には「英語上手だよ」「アメリカを楽しんで！」と励ましの言葉をかけてくれました。その温かい言葉を受けて恐怖心が薄れ、むしろ「もっと話したい」という前向きな気持ちに変わっていきました。勇気を出して話しかけ、相手の言葉を一生懸命聞き取る、それを続けていくことで、「英語を使って人とつながる」ことの喜びを実感できたのです。

今回の経験から学んだことは、言葉が完璧でなくても心を開けば通じ合えるということ、そして人との出会いが自分を成長させてくれるということです。帰国後は、この学びを学校生活や将来の挑戦に活かしていきたいと思います。例えば、クラスの友達や地域の人々に対しても、積極的に声をかけたり、相手を認める言葉を伝えたりすることで、より温かい人間関係を築けると思います。また、英語の学習にもさらに意欲的に取り組み、将来は国際的な場で活躍できる人になりたいです。

ミッドランド市での3週間は、私にとって人生の宝物のような時間でした。温かく迎えてくれたホストファミリーや、市民の方々に心から感謝しています。

この経験を出発点として、これからも世界とつながり続け、自分自身を成長させていきたいです。

